



菅波 茂

4.16

AMDAの源流である岡山大学医学部クワイ河医学踏査隊25周年およびクワイ河平和基金10周年記念事業として、今年6月よりタイ国カンチャナブリ県医療過疎地において、移動診療所プロジェクトを実施することになった。

カンチャナブリ県の間部、特にタイ、ミャンマー国境付近に点在する農村地域および、少数民族地域ではマラリアや下痢などの熱帯性疾患、肺炎などの呼吸器疾患そして歯科疾患などがまん延し、地域住民は気軽に医療サービスを受けられない状況にある。

診療活動の対象者は、1日約200人が見込まれている。診療活

動においては、地元の村長や保健ボランティアと緊密な連絡を取り合い、対象地域の選定においてはカンチャナブリ県保健局担当者と相談することになる。

## 25年前の恩に答えて

移動診療所は地域医療活動に必要な機材を搭載。医師1名、歯科医師1名、保健婦1名、事務スタッフ2名、運転手1名、そしてボランティア5名で構成されるタイ人医療チームが1カ月に1回医療過疎地域を巡回する。これに日本人ボランティアが参加することになる。

に派遣された第1次岡山大学医学部クワイ河医学踏査隊の活動の場は、永瀬氏から紹介されたモン族が開拓した、パコダ農場であったからである。

永瀬氏は太平洋戦争中に憲兵隊通訳として「泰緬鉄道」建設に参加。帰国後50年間にわたって一人で「泰緬鉄道」戦後処理を行ってきた人である。クワイ河平和基金は彼の講演料、著作料として彼に寄せられた寄付が財産となっており、貧しい家庭や少数民族の子たちの看護婦コースの奨学金である。

25年を経て永瀬氏の恩によつて心えることができる日が来たことを、関係者の方々に心から感謝し、引き続きのご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

(アシア医師連絡協議会代表、題字は筆者)

クワイ河平和基金の主宰である永瀬隆氏の存在抜きにして、AMDAの存在は考えられない。なぜなら、昭和46年にクワイ河の上流